

令和3年度第2回奈良市男女共同参画推進審議会会議録	
開催日時	令和3年10月20日（水）午後1時30分から3時00分まで
開催場所	奈良市男女共同参画センター会議室
議 題	1 奈良市男女共同参画計画（第3次）の案について
出席者	委 員 島本委員、川村委員、池上委員、江川委員、大橋委員、 倉西委員、永井委員、西川委員、東委員 【計9人出席】
	事務局 大井市民部次長、松原課長、市川室長、清水主任、 森田主任、櫛田、加藤
開催形態	公開（傍聴人0名）
担 当 課	市民部共生社会推進課 男女共同参画室
議 題	1 奈良市男女共同参画計画（第3次）の案について
決定又は 取り纏め 事項	1 奈良市男女共同参画計画（第3次）の案について報告し、議論を行った。
<b>議事の内容</b>	
<p>「第1回奈良市男女共同参画推進審議会における、委員からの質問・意見について（各課からの回答）」の進捗状況について</p> <p>（委員） 男性職員の育児休業取得率について、消防局が依然として取得率が低い状況であり、その理由として、意識及び制度が浸透していないことと、業務内容が専門的であり代替がきかず、欠員が生じることにより現場対応する勤務体制が維持できないためとある。人がいないことについては、今後環境の整備や人員の配置が必要になる。今後計画を立てる際には検討してもらいたい。</p> <p>（委員） 現在、奈良市職員の新規採用者の男女比が1：2ということで、性別関係なく個人の能力によって採用していることを知った。 防災に関して、女性の視点を取り入れているとの回答だったが、市民からもそれが見える形にしていただければ安心できる。</p>	
<p>案件（1）奈良市男女共同参画計画（第3次）の案について</p>	

(委員)

消防吏員に占める女性の割合を3.4%から5.2%に増やすという目標自体は良いが、定員は増えるのか。男性の育児休業がなかなか取れず、結局は人が足りないという説明があった。単に女性吏員を増やすだけでは、育児休業がなかなか取れないという職場の環境は変わらないように思う。

⇒ (事務局)

消防より、毎年女性の採用に向けてハード面の整備を進めているという話を聞いている。整備をするのにコストと時間がかかっているが、女性の割合を目標の5.2%に近づけていきたいとのことだった。全体の定員が増えるかどうかについては確認できていない。

(委員)

指標・目標数値の項目の一つに「放課後児童指導員(常勤)一人当たりの児童数が20人以下のホーム数」があり、素案の時の目標数は43ホームだったが、今回26ホームへと変更されている。この理由は何か。

⇒ (事務局)

全ホーム数である43ホームを目標値に設定して全然届かず終わるのではなく、予算的なことを総合的に判断して、年間2ホームから3ホームずつ増やし、少しずつでも良いから達成できるように変更したと聞いている。

(委員)

基本方向Ⅲに、「これによって、男性は育児・介護・家事や地域活動さらには、自己啓発のための時間の確保ができ、女性も、仕事と結婚・出産・育児との両立が可能になります。」とあるが、男性は地域活動や自己啓発の時間が取れるのに、女性はしなくてはならないことしか書いていない。表現を変えてほしい。

⇒ (事務局)

検討し、修正したい。

(委員)

合計特殊出生率について、奈良市平均が県平均と比べて低い、その要因は何か。人口数が関係あるのか。

⇒ (事務局、委員)

集計の仕方は各市町村同じである。奈良市は県南部に比べ都市化が進んでいることも要因ではないかと考える。

(委員)

性別による役割分担意識のページにおいて、女性・男性・全体と分かれて記載

されているが、年齢別では見ることはできないのか。内閣府の同様の調査では、10歳毎の変化が見られるようになっていた。

また、項目の「男性は仕事、女性は家庭」という言葉自体が風化しており、若い人には意味が伝わりづらいのではないかと。偏見な言い方だが「家事や育児は女性の方が向いている」等の表現の方が、若い人になじむのではないかと。

(委員)

基本方向Ⅱの主要課題「配偶者暴力等を根絶する環境の整備」「の等」というのは、配偶者暴力を含めた社会の全ての暴力を指しているのか、もしくは、内縁関係とか元夫とか、そういう意味の「等」を指しているのか。

また、「児童虐待通告全体に占める重篤な児童虐待の割合」をゼロにするということは、主要課題とどう繋がるのか。

(委員)

一つ一つの事業は必要なものだと思うが、それと男女共同参画社会の実現とはどう繋がるのか、そこをはっきりとさせて欲しい。目的を達成するために、手段として施策があり、この施策が目標を達成する手段として合致しているのか。その施策の達成率として指標があるにも関わらず、計画の進捗状況を確認するときに、その指標さえ達成できていれば目標も達成できたというような錯覚を起こさせる可能性がある。

「暴力のない安全・安心な社会作り」という目標に、数値の入った指標がなじむのか。そもそも指標を設定することが難しいことに対し、あえて指標を設定しなくても良いのではないかと。

⇒ (事務局)

指標自体の削除についても検討したい。

(委員)

基本方向Ⅱについて、他に指標として数値化できるものはないのか。表裏の関係にある配偶者暴力と児童虐待の対策として協調しているのは良いが、児童虐待だけが挙がっている。

⇒ (事務局)

各課に照会をかけて事業を探した結果、この基本方向Ⅱにあたる事業は他に出てこなかった。この指標を無くすと他にこれにあたる事業がないため、残していた。確かに指標を設定するのが難しい分野であるので、全く無しにするか、他にないかを検討したい。

(委員)

「妊娠期及び産後のハイリスク者を対象にした、妊産婦・新生児訪問指導の達

成率」を98%にするということを目標値にされているが、これを達成することで男女共同参画がどの程度進んだのかをどうやって図るのか。もちろん女性が活躍するためには妊娠から子育てに向かって、切れ目のない支援は大切だとは思いますが、男女共同参画がどの程度進んだのか図るために、この訪問指導の達成率を上げることで、女性の活躍の推進が進んだと見るというところを、もう少し補足して欲しい。

⇒（委員）

ハイリスクという言葉にはいろいろな意味がある。配偶者との関係や、どうしても一人で産み育てなければならぬなど、ハイリスクの母親と子の安全を確認する厚労省の事業だと思う。ハイリスクの背景を支援する意味もあり、母親すべてに負担がかかるのではなく社会全体で支援していくという意味もあるのではないかと。

⇒（事務局）

様々なハイリスクを背負った母親を妊娠期から支えることで、女性活躍に繋がっていると認識している。

（委員）

各課が既に行っている事業について、男女共同参画に関わりがある施策を探し、とりあえず男女共同参画計画の中に組み込み、数値目標を作ったという順番ではないか。一度各課が挙げた事業が本当に指標として適当かどうか、判断する時期に来ている。

「乳児家庭全戸訪問の達成率」と「はじめてのママパパ教室の参加者数」と「妊産婦・乳幼児健康相談の満足度」というのは、指標から外してもいいのではないかと。女性は全員が出産し、育児をするわけではないにも関わらず、これを女性活躍推進の目標の指標としてしまうと、産み育てない女性たちは自分たちが入っていないと感じるのではないかと。

今問題なのは、「男は仕事、女は家庭と仕事」となっており、女性は仕事も家事もやらなければならないというところに大きな問題があると思う。女性＝妊娠・出産とセットで記載するような記載の方法は考えていただきたい

⇒（事務局）

委員ご指摘のとおり、二次計画で取り組んだ事業の中から選択し、柱建てを見直した上で再度事業の洗い出しを各課で行い、それぞれの事業を抽出した。その中で目標値を設定できるものを、各分野に割り振り策定した。計画案の指標の中から外すものについても検討したい。

⇒（委員）

個人的に、「はじめてのママパパ教室」は、男性の育児休暇の取得とかなり繋がるのではないかと。

ただ、本審議会で見解があったように、男女共同参画という視点をも

って事業に臨むということを各担当課に意識づけるよう進めていただ  
きたい。

資 料	(1) 会議次第 (2) 奈良市男女共同参画計画（第3次）（案） (3) 第1回奈良市男女共同参画推進審議会における、委員からの質 問・意見について（各課からの回答）
-----	--

令和3年 月 日

議事録署名委員

議事録署名委員